

兵庫 県
保険 医協
会

西宮芦屋支部ニュース

No. 277

2009・8・25

発行
〒662-0074

兵庫 県保
険医協
会
西宮市石
別町十八
一八

西宮・芦屋支部
大森内科
医院内
電話 〇七
八(三九
三)一八
〇一

第4回レセプト電子送信問題検討会

切実な悩み持ち寄って

西宮・芦屋支部は8月8日、西宮渡辺・心臓血管センターで、レセプト電子送信問題検討会を開催。医師・スタッフら23人が参加した。講演では、西宮芦屋支部が7月に行った緊急会員アンケートに寄せられた会員の切実な悩みに応える形で、田中慎一氏(フォーメディカル株式会社)がレセプトオンライン化にかかる初期費用・ランニングコストや、スケジューリングなどを解説し、広川恵一先生(西宮市・広川内科クリニック)が司会を務めた。参加者の感想文を掲載する。

いと考えている。来年4月1日に間に合わなかった場合どうなるのか。締切りが迫ってきた今の時点でも、厚労省からの回答はまだない。参加した会員からの質問は切実なものばかりであった。どの医療機関もオンライン化には個別の問題を抱えている。質問の多くは、どの回線業者を選んだらいいのかという悩みであった。建物の制約で回線自体が引けないという会員もいるだろう。設置費用とランニングコストで悩むところだ。国の補助がないならなるべく安くあげたい。

広川恵一先生の司会の下、医師・スタッフら23名がフォーメディカル株式会社の田中さんの説明に耳を傾けた。私が検討会に参加した目的は、紙のレセプトですべてに作成していない会員の方々はどのような方法で病名の漏れ点検をしているかを知りたかったからである。オンライン化の最終ゴールが来年4月1日であることを、すっかり忘れていたあと半年ではないか。当院は日本医師会の標準レセコンORCAをすでに導入しているが、フロッピー提出はまだである。急がねばならない。一気に回線送付する前にフロッピーでワンクッション置きた

こうしたコンピューターと通信が組み合わされたプロジェクトは、コンピューター事業者(レセコン業者)と通信事業者が互いバラバラのことを主張し、それを素人の我々が総合判断をしなければならぬところがつらいところだ。会場で聞いたところでは、病名チェックは、いったん紙に打ち出して行うしか妙案がないらしい。

【西宮市・吉岡整形クリニック

吉岡 裕樹】



レセプトオンライン化への対応について講演する田中氏



講演後も参加者からは切実な質問が相次いだ

納涼懇親会



西宮芦屋支部はレセプト電子送信問題検討会の後、ニューミュンヘン倶楽部神戸元町店で納涼懇親会を開催。冷たいビールを飲みながら、ざっくばらんな懇親会となった。

世話人会だより

西宮・芦屋支部は7月24日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催した。出席は8人。

【報告】

- ① 第29回支部総会(7・4)
- ② 医療過誤・訴訟セミナー(7・18)
- 【協議事項】
- ① 第21回在宅医療研究会(7・25)
- ② 新規開業医交流会(7・25)
- ③ 事務講習会(8・15)
- ④ 第4回レセプトオンライン請求問題検討会(8・8)
- ⑤ 支部納涼懇親会(8・8)
- ⑥ 漢方研究会(9・5)
- ⑦ 英語で診療#22(9・18)
- ⑧ 第5回X・P読影会
- ⑨ 第22回在宅医療研究会(11・21)
- ⑩ ホームページ作成勉強会
- ⑪ 阪神淡路大震災15周年企画

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

第13回医療過誤・訴訟セミナー

司法に対して声を上げよう

西宮・芦屋支部は7月18日、西宮市民会館で、「薬の使い方と裁判」と題して第13回医療過誤訴訟セミナーを開催、医師・薬剤師ら36人が参加した。講師に鶴飼万貴子弁護士(米田泰邦法律事務所)を迎え、半田伸夫先生(西宮市・半田医院)が司会を務めた。参加者からの感想文を掲載する。

今回は、鶴飼万貴子弁護士から「薬」が関係した「医事紛争」とそれに対する裁判所の判断を豊富な事例を提示しながら解説していただきました。医師、薬剤師ともに参加者が多く、講演後には定刻を過ぎても活発な討議が行われました。その中で、特に印象に残ったのは次の2点でした。

①薬剤添付文書の重要性

添付文書に記載されている効能・効果、禁忌などと異なった薬剤の使用の正当性を裁判で証明することは非常に困難であること

(例) 不穏患者にセレネースを投与：効能には統合失調・躁病のみ

②医療職の中でも医師の刑事責任が突出して重いこと

事故に直接関与していなくても実刑判決を受けることがある

(例)「京都宇治川事件」では准看護師が医師の指示のコンクライトCaを間違っ

てコンクライトKを静脈注射してしまっ

た。さらに鶴飼氏は、このような現状に対する対策の一つとして「裁判所の判断で明らかにおかしいと思うことに対しては、インターネットなどしかるべき手段で法曹界にフィードバックする必要がある」ことを訴えられました。

われわれも自分たちで正すべきことは正した上で、司法に対して声を上げるべきことは上げなければ、いつまでも医療界は閉鎖社会と言われてしまうのではないのでしょうか。

また、討議ではジェネリック薬品の問題などで医師と薬剤師の連携がなかなか難しいことが実感されました。

誰が責任を取るのか?というのではなく、患者さんの自己責任の問題も含めてこれから皆で考えていくべき問題かと想われます。

最後に司会の半田先生がおっしゃった、カルテを中心とした「記録」の重要性も再認識させられました。

【西宮市・やまかげクリニック
山陰 圭一】

山陰 圭一



講義後も医師・歯科医師と薬剤師の先生が活発な討議を行った

第21回在宅医療研究会

「湿潤療法」

「痛みと薬剤」

をテーマに講演

西宮・芦屋支部は7月25日、第21回在宅医療研究会を西宮神社会館で開催、90人が参加した。第1講は「今日からできる、在宅での床ずれ・やけど・キズの当てゝ湿潤療法の基本から実践まで」と題して、明石市・医仁会譜久山病院の譜久山仁先生、第2講は「痛みと薬剤」について、観察のポイント」と題して、兵庫医科大学疼痛制御科学・ペインクリニック部助教の柳本富士雄先生を講師に迎えた。

譜久山先生からは、床ずれ・やけど・キズの当てゝ導入されている、開放性ウエットドレッシング(OWT)療法について、従前の治療法との違いや、湿潤環境を保持する、創面を物理的に損傷しない、消毒液は使用しない、汚染を除去する治療法の実演を講演された。参加者からは「ラップ療法に対して臭いなど、全面的に納得していませんでしたので、今回の湿潤療法には大変興味がありました。自分の判断での実施には勇気いりますが、チームを組んで実施していきたい」「わかり易いお話しで、明日からでも実行してみたいと思うお話しでした。わずかな年金で高い皮膚保護材を利用されている方がいるので、OWTパッドを早速ご紹介したい」との声が寄せられた。

柳本先生からは、痛みについての国際定義や、急性・慢性・がん性疼痛という分類に基づいて、オピオイド薬剤の使い方とともに、それへの抵抗性疼痛についても詳しく解説された。さらに兵庫医大

第22回漢方研究会 (薬科部共催)

呼吸器疾患における処方の実際

～かぜを中心に～

- 【日時】 9月5日(土) 午後4時～5時半
- 【会場】 兵庫県学校厚生会館2階会議室
- 【講師】 北海道大学名誉教授 本間 行彦 先生
- 【司会】 川崎 史寛 先生(川崎医院)
長光 由紀 先生(ウイング調剤薬局)
- 【協賛】 株式会社ツムラ

お問い合わせは協会事務局伊藤・岡林・山田まで Tel.078-393-1817



あいにくの雨の中、90人もの参加者が会場につめかけた

疼痛制御科学・ペインクリニック部のめざす、難治性がん疼痛治療とがん疼痛治療拠点という二つの使命を強調された。参加者からは「もつとペインの先生が在宅にかかわって下されば嬉しいですが、外来部門の時間だけでは十分にコンタクトがとれないのが現状です」「ターミナルの在宅患者に処方されていたオピオイドについて理解を深めました。今後、患者・家族の抵抗感を解いて、痛みの緩和をいっしょにしていきたい」との声が寄せられた。